

<b>Course number</b>		G-LAS10 80001 LJ36					
<b>Course title (and course title in English)</b>		科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング Critical Thinking on Science, Technology and Society		<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>		Graduate School of Letters Professor, ISEDA TETSUJI	
<b>Group</b>		Interdisciplinary Graduate Courses		<b>Field(Classification)</b>		Humanities and Social Sciences	
<b>Language of instruction</b>		Japanese		<b>Old group</b>		<b>Number of credits</b> 2	
<b>Number of weekly time blocks</b>		1		<b>Class style</b>		Lecture (Face-to-face course)	
				<b>Year/semesters</b>		2025・Second semester	
<b>Days and periods</b>		Tue.5		<b>Target year</b>		Graduate students	
				<b>Eligible students</b>		For all majors	
( Students of Graduate School of Letters cannot take this course as liberal arts and general education course. Please register the course with your department. )							
<b>[Overview and purpose of the course]</b>							
<p>伊勢田ほか編『科学技術をよく考える』をテキストとして、科学技術と社会の接点で生じるさまざまな問題についてディスカッションを行い、多面的な思考法と、思考の整理術を学んでいく。理系の大学院のカリキュラムでは、科学と社会の関わりについて学ぶ機会はそれほど多く与えられない。他方、東日本大震災後の状況に特に顕著にあらわれているように、科学技術が大きな影響をおよぼす現在の社会において、研究者が自らの研究の社会的含意について考えること、アカデミズムの外の人々と語り合うことの必要性非常に高まっている。練習問題を使いながら広い視野を持った大学院生を養成することが目的である。</p>							
<b>[Course objectives]</b>							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリティカルシンキング(CT)という考え方について知り、CTのいくつかの基本的なテクニックを身につけること</li> <li>・科学技術社会論の概念を学び、それを使って議論ができるようになること</li> </ul>							
<b>[Course schedule and contents)]</b>							
<p>授業はテーマにそったグループディスカッション、全体ディスカッション、講義、演習の組み合わせで行われる。          テキストは以下の10のテーマから構成されているが、本授業ではそのうち6つを取りあげ、関連する知識やスキルとあわせて各2回程度を使って議論を行う。取り上げる題材は受講者の興味も踏まえて決定する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子組み換え作物</li> <li>・喫煙</li> <li>・血液型性格判断</li> <li>・地震予知</li> <li>・動物実験</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脳科学の実用化</li> <li>・乳がん検診</li> <li>・地球温暖化</li> <li>・宇宙科学・技術への公的投資</li> <li>・原爆投下の是非を論じること自体の正当性</li> </ul> </div> <p>初回に前半のテーマ3つを決定する。5回目の授業で後半のテーマ3つを決定する。</p> <p>課題についてのフィードバック方法は授業内で説明します。</p>							
Continue to 科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング(2)							

科学技術と社会に関わるクリティカルシンキング(2)

**[Course requirements]**

None

**[Evaluation methods and policy]**

3 分の 2 以上の出席が単位発行の最低条件となる。  
積極的な授業参加による平常点が 7 0 %、提出物の評価が 3 0 % で採点する。

**[Textbooks]**

伊勢田哲治ほか編 『科学技術をよく考える クリティカルシンキング練習帳』（名古屋大学出版会）

**[References, etc.]**

（References, etc.）

伊勢田哲治 『哲学思考トレーニング』（ちくま新書）  
野矢茂樹 『新版 論理トレーニング』（産業図書）

**[Study outside of class (preparation and review)]**

ディスカッションのテーマとなる箇所は事前に読むこと。また宿題という形で課題を課すことがあるのでそれをきちんと行うこと。

**[Other information (office hours, etc.)]**

オフィスアワー 金曜日 15:00-16:30

**[Essential courses]**